

わが市わが町



「藤沢市」

ふじキュン♡

藤沢の緑

藤沢市は相模湾に面し、富士・箱根・丹沢の山並みを望む気候温暖な自然環境に恵まれたまちです。中世に遊行寺門前町として始まり、江戸時代には東海道五十三次の一つ、藤沢宿として、また江の島詣の足場として発展してきました。現在は面積69.57km²、人口42万人の都市となっています。

旧東海道や大山街道などの街道沿いには古い社寺があり、社寺林が多くみられます。社寺林は主として地域の潜在自然植生である常緑樹林であることが多く、地域本来の自然を今に伝えています。



(海から見た江の島と藤沢市)

自然豊かな谷戸

本市に3つある大きな谷戸、「川名清水谷戸」、「石川丸山谷戸」、及び「遠藤笹窪谷(谷戸)」は3大谷戸として市民に親しまれ、それぞれ異なる河川の流域に位置しています。川名清水谷戸は境川水系、石川丸山谷戸は引地川水系、遠藤笹窪谷は相模川水系の特徴を顕著に現していて、市内にしながら様々な生態系を観察することができます。

しかしながら、都市化に伴い、このような自然環境が年々減少傾向にあり、貴重な自然環境と土地利用の調和を図る必要があります。

そのため、本市では、平成

19年に「藤沢市ビオトープネットワーク基本計画」を策定し、その中で3大谷戸を保全型核エリアとして位置づけることにより、自然環境に配慮したまちづくりを進めています。



(石川丸山谷戸)

市の木、クロマツ

藤沢市の木として「クロマツ」が指定されています。海岸線にある本市でよく育ち、雄大な樹木として本市の発展を象徴するものであることから、昭和45年にクロマツが市の木として選ばれました。

クロマツは常緑針葉樹で、潮害に強いので、市内では海岸地方に多く繁茂し、防砂林としての機能を有しています。また、一般的な民家でも園芸目的で植えられ、幅広い世代の市民から愛されています。

松くい虫被害への取り組み

前述でご紹介した、市の木、クロマツですが、クロマツに発生する代表的な病害に、松くい虫被害があります。松くい虫被害は、昭和50年代に全国的に大きな被害をもたらして以来、年々減少傾向にありますが、未だ本市でも発生が確認されています。

そこで本市では、市の木、

クロマツを保全するため、官民に縛られない、柔軟な防除を講じています。県と連携を取りながら健全クロマツへの予防薬液の樹幹注入、時には民有の罹病クロマツの伐倒を行っており、松くい虫被害を最小限に留めるよう努めています。



(写真左：健全クロマツ、写真右：罹病クロマツ)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて

東京2020オリンピックのセーリング競技会場として、本市の江の島が選ばれました。

多くの来島者が見込まれるなか、島内の自然環境を守りつつ、大会を成功させることは私たちの責務です。世界中から競技観戦に訪れる来島者が楽しく、思い出に残る大会になるよう取り組みを進めています。



(藤沢市 都市整備部 みどり保全課)